

所得増加にも貢献！ 地域農業ビジョンは、こう作ろう



概要 Abstract

地域農業が抱える課題を特定し、対策を反映したビジョンの作成手順を整理しました。

成果 Results

1. 課題の共有

ワークショップを開催
(関係機関職員：5～10人)

参加者全員の意見を評価
→地域農業の課題を共有しましょう

実践例

- ・空知A町 (転作率：20%)
- ・JA職員と普及指導員 計8人

No.	項目	課題	重要性 注1)	取組みの 容易さ 注2)
1	経営 経済	米価の安定化	4.6	1.8
2		需給対策	4.1	1.1
3		JAの集荷体制	4.6	2.4
4	担い手	後継者の確保	4.8	1.8
5	生産	春作業 (苗管理・移植) の省力化	4.9	2.8
6	技術	安定生産	4.0	2.6
7	機械 施設	ICTの活用 (省力化)	4.1	2.3
8		ICTの活用 (品質)	3.9	1.8
9	生産基盤	生産基盤の確立	4.5	1.9

「重要性」と「取組みの容易さ」の得点を確認

「重要性が高く、取組みが容易な課題」は

↓
「春作業の省力化」だった

課題を参加者で共有できた！

注1) 「重要性」は「全然重要ではない」を1点、「極めて重要である」を5点とした段階評価に基づく。
注2) 「取組みの容易さ」は「難しい」を1点、「容易」を5点とした段階評価に基づく。

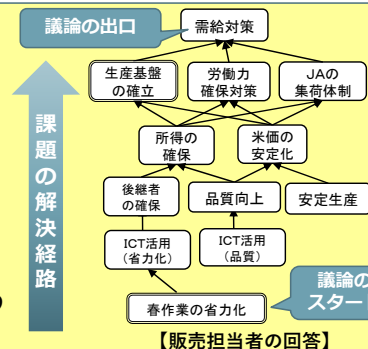
2. 解決する課題を特定

課題解決経路を確認
(ワークショップの参加者：2人程度)

立場による考えを可視化
→優先的に取り組むべき課題を特定しましょう

実践例

- ・空知A町
- ・JA職員 計2人 (営農担当者、販売担当者)



課題の解決経路を可視化

「春作業の省力化」として
↓
「高密度播種短期育苗」の導入を検討することに

優先的に取り組む課題を特定できた！

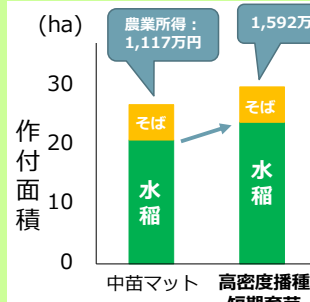
3. 経営効果を確認

経営評価を実施
(地域の経営データを活用した試算)

取組み前後の作付面積と農業所得
→経営効果を確認しましょう

実践例

- ・空知A町
- ・家族労働力：3人
臨時雇用：2人の経営で試算



高密度播種短期育苗を導入した経営効果の試算例

作付面積と所得を確認

「高密度播種短期育苗」の導入は
↓
水稲作付面積の拡大と農業所得の増加に効果あり
対策としてビジョンに反映
↓
農業所得の増加に貢献！

ボトムアップ型の提案に基づく、「地域農業ビジョン」の作成が可能！

普及 Dissemination

- ・地域農業の課題に対応したビジョンの作成が可能
- ・対策を反映したビジョンは、農業所得の増加にも貢献

連絡先 Contact

中央農業試験場
農業システム部 農業システムグループ
0123-89-2001
central-agri@hro.or.jp